

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社長を始め管理者、職員は、ご利用者様がこれまで暮らしてきた地域での生活を大切に、そわんの理念に添って日々支援しています。	『笑顔で安心一緒に暮らそう。あなたと私ずっと家族だよ』という開設時から掲げている理念を基に、ご利用者の笑顔、職員の笑顔を大切にケアを行っています。また、事業所内にも各所に理念の掲示をしており、理念を意識するように努めています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアさんからの協力を得たり、あたり近所への散歩などに出かけ声をかけたり、かけていただいたり、おなじみさんがふえて、「そわんさんだいやの？」など声かけていただけるようになりました。	お針のボランティアに来てもらいご利用者と一緒に作品を作ったり、中学生の体験ボランティアに来ていただいたりしているほか、近隣の事業所と合同の運動会を開催するなどして、近隣の方々とは日常的に交流し、馴染みの関係ができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の花いっぱい運動に参加したくさんの花を植えたり、ご近所での草取りボランティア活動の実践を通じて、出来る範囲で発信している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員の参加や、会議記録の閲覧内容を見ていただき、日々の実践につながるようにしております。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、民生委員や近隣の住民、市担当者や地域包括支援センター職員から出席してもらっています。会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議、区分別ケア会議、運営推進会議などの場で報告したり情報交換をしながら築いている。又栄養士さんから献立内容の評価を頂き少しずつではありますがそれに答えられるようにも取り組んでおります。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております。いつもアドバイス頂いているほか、3ヶ月に1回の地域ケア会議にも出席しており、いつでも気軽に相談しあえる関係にあります。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを参考に新人研修では必ず取り入れ、自分が嫌だと思う事はしないように話し合っています。玄関の施錠も夜間のみとしています。又言葉の拘束について今後更に話し合いを重ねて行きたいと思っております。	外部研修への参加をし、ミーティングにて研修内容の周知徹底をしているほか、魚沼市のマニュアル、認知症介護研修センターのマニュアルを活用し研修を行い、言葉による抑制についても確認するなど職員全員で理解を深めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市が計画する研修に参加したり、新人研修の場で学んでいただき、職員全員が日頃から虐待について意識し困難事例など全員で話し合いながら支援しております。	管理者・職員は、グループホームの密室性が虐待につながる可能性をよく理解しており、マニュアルを整備し、新人研修にて虐待防止に関する研修を行ない、防止に取り組んでいます。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居申し込みの際、訪問した時などご家族様からお話があった場合は、話を伺って包括支援センターにつなげるなどの支援を行っております。又今後関連機関と相談して職員研修として検討したいと思います。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学して頂き、疑問にお答えしたり説明をさせていただいておりますが、契約時には改めて、契約書に添って十分な説明を実施し、不明な点があればその場で説明させていただきご理解納得を得ていただいております。又いつでも説明させていただくこともお話しております。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に遠方のご家族以外の方から交代で参加いただき、何らかのご意見をいただくようにし記録として職員からも確認いただき反映しております。	毎月のお手紙や事業所の広報もお送りし、情報提供を行っているほか、年に1回の夏祭りにはご家族にも参加の案内をお送りし参加していただき、意見をいただけるよう場としています。苦情などは寄せられていませんが、玄関にご意見箱も設置し、面会時に確認したご家族の要望を実際に活かしています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの場で改善提案や意見があれば発表いただきその場で社長始め全員で話し合い、直ぐ可能なことなどは実施し反映させている。又その他も検討のうえ実施している。	各ユニットにて毎月ミーティングを行い、意見を吸い上げるようにしているほか、社長、管理者も現場で業務を実際に行う中で、職員とも業務の中で意見交換を行ない、対応するようになっています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングなどに参加し職員の意見などに耳を傾け環境整備などしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの研修予定など計画的に組み込んでおります。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム交流会や三魚沼地域のグループホーム連絡会での3ヶ月に1回の意見交換の場に参加しネットワーク作りをしています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接などで何となく顔見知りになって、「なんだから?この人は、俺に何のようだから?」などの不安が少しでも解消できるように会話を進め、入居された時はしっかりと向かい合って、話を聴きながら笑顔で安心できるような声かけをしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用するに当たり、家族からの要望をしっかりと聞き取り、それについての説明を安心いただけるように行います。又いつでも面会に来ていただいてもかまわないことや、面会時には気にされていた様子等を確実に伝えるようにしております。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接などから本人や家族の希望をプランに上げて、確認をいただいた上でご家族、ご利用者様の一番不安なそわんでの生活が安心してゆっくりくつろいでいただけるように職員全員が笑顔で耳を傾け良く聴き、ゆっくりと安心していただけるように努めております。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	そわんの理念に添って家族の1人として出来ることはやって頂き、わからないところは教えていただきながら、お互い支えあい、感謝の気持ちを忘れないように、コミュニケーションを大切にして支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の様子のお便りや、職員からのお手紙だけでなく、面会時にはご利用者様の様子や、現在の健康状態などを説明させて頂いたり、なによりご家族での話し合いの場、時間を多くとっていただけるように環境を整え支援しております。	事業所広報の「あったか通信」と職員が作成するお手紙を毎月送付しているほか、日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの希望や、日々の会話の中で様子を見ながら自宅や地域へ出かけ床屋さんへ行ったり、お店に行き昔なじみの方から声をかけていただいたりしております。又家族が毎週面会に来て出かけたり、自宅へ連れて行って半日くらい過してこられる方も居ります。少ないですが自宅へ外泊される方もあり送迎の支援をしております。	ご利用者の友人宅までお送りし、お茶のみをしていただいたり、馴染みの床屋さんへ出かけたり、ご自宅が気になる方には連れて行ってあげたりと今までの関係継続支援に努めています。また、職員の異動についても事業所広報にてご家族に説明し、ご理解をいただけるように努めています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場面々では色々あるが、思わぬところでの利用者様間のいたわりあいや声かけの場面を目の当たりに嬉しく思うことが多くあります。又そんな繋がり生まれそうな場面ではさり気なく支援し安全を配慮して見守るようにしています。そのほか全員が関係を築けるようにホーム内での交流会やサークルの日を設け話題提供などの支援をしております。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去され落ちつかれるまではご家族からの相談があれば対応させていただいております。又ご家族の方から声をかけていただき、懐かしく話をする場合があります。ご家族からはご逝去の報告なども頂いております。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の私の思いの活用で毎月1回の発表の場で出た思いを職員全員で話し合いその中の一つでも叶えて上げられる工夫をし一緒に出かけたり、無理な内容は個々に支援しております。	散歩に出かけたい方、自宅へ行きたい方、畑をしたい方、ご本人が話してくれたり、訴えてくる希望にそえるように日々の生活の中で聞こえてくる会話なども耳を傾けて把握するようにしています。また、センター方式の書式を使用し、日々の生活のなかで得た情報を職員間で共有し、支援できるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報や在宅時のケアマネ情報をもとにして面会時などご家族への確認など行いながら一人ひとり話をする中で思い出を見つけられるように 努めております。	事前面接の際にご家族やご本人に聞きながら情報を集めたり、入居前のケアマネに教えていただいたり、面会に来ていただいた友人から教えてもらったりと情報の把握に努力しています。3ヶ月に1度は定期的に情報の更新の機会も設けており、職員間でも情報共有できるように努めています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の支援経過記録や申し送りなどを職員全員が把握し、その内容をもとに 個々の様子や変化を見守りその都度話し合い記録しモニタリングやミーティングにて検討するようにしております。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時等に現状説明を行ったり健康面については主治医と相談の上で、モニタリング内容を職員間で話し合っってプランにあげるようにしております。	毎月の会議にてモニタリングを行い、3ヶ月に1回は全てのご利用者がモニタリングできるようになっています。ご家族の要望も確認し、プランに取り入れ、日々のサービスに繋げています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援経過記録、センター方式、などに記入しながら職員間の申し送りやミーティング時に検討し、モニタリングからプラン見直しに活用しております。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの美容院への送迎や、突発の気分低下時の外出支援など本人の気持ち安定できるまで関わるよう取り組んでおります。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの床屋、美容院、スーパー、菩提寺やお墓、かかりつけ医、図書館、ご近所さん、自宅など話し合いの中で希望されたら、出かけたりするようしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医の説明をさせて頂きご希望の方は主治医を協力医に変更いただき、在宅からの主治医を継続の方もおりますが、地域性もあり各主治医の先生から相談に乗っていただき、助言などいただきながら必要に応じて適切な受診が出来るようにしております。	そわんの協力医については職員が受診支援をしています。協力医以外の受診は基本のご家族にお願いしています。医療機関には受診連絡表を渡し、情報提供を行なっています。往診に来ていただくときもあり、連携を図りながら対応しています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師及び訪問看護との連携はしていないので、職員とケアマネが話し合い協力医療機関や主治医と相談し適切な医療が受けられるようにしております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には連絡表を記入し情報提供を実施し、入院中には出来る範囲でお見舞いに出かけ、折々に情報をいただきながら入院が長引かないよう連携しております。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りまでの支援を提供するべく関わっておりますが、訪問看護との医療連携がないので、医療を伴ってくると、主治医、家族、ご本人との話し合いで方針を決めていきたいと思っております。(GHは在宅扱いですので、個々に訪看利用が可能になってほしいと思っております。)	契約段階で管理者は、ターミナルまで支援することを前提としたホームであることを伝え、看取りの指針やマニュアルを整備しています。また、ホームでできること、できないことを明確に示し、ご利用者の状態に応じてその都度話し合いを行っています。看取りに対応した支援経過を作成しており、新人研修時にも事業所の看取りに対する考え方を確認しています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年1回普通救命講習を受講し、知識を身につけることで、急変時に慌てることなく適切な対応が出来るように備えております。	毎年1回は全職員が普通救命講習を受けており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を消防署員立会いの中で実施、慌てず、安全に避難できるように対応しております。隣近所の方にも声かけをし協力いただけるような体制作りを強化していきたいと思っております。	避難訓練を年2回実施し、運営推進会議に参加してもらっている近所の方々には非常時の際の協力を依頼しております。また、非常用の食品についても半年に1度は点検しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	すべての職員が日々、その方の気持ちや、様子に注目しながら穏やかな気持ちでいられるような声かけや関わりをすることで信頼を築き、安心して暮らせるようにしております。	広報誌への写真の掲載は入居の際に同意を得てから行なわれており、声かけも方言を使用してもきつい言葉にならないように配慮し、支援が行なわれています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はその時々的心声を聴きながら、本人が思いを話せるようじっくりと聴き役になるようにしております。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出したい人、買い物に行きたい人、寝ていたい人さまさまの思いを大切にしながら、話し合う中で出来るだけの希望が叶えられるような支援をしております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後などの更衣時には一緒に洋服を選んだり、似合っている服を用意したりし、排泄時に汚染した時は、声かけをして着替えていただいている。又定期的に散髪の声かけをし理・美容院への送迎をしたり、希望があればお化粧品のお手伝いなどの支援をしております。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや味見をして頂いたり、食べたいものを教えて頂き、季節ごとには昔ながらのご馳走作りを教えてくださいながら、一緒に楽しく作っております。又配膳や片付けもお手伝いいただきながら楽しく行っております。	ご利用者と職員が食事について会話をしている感じが、とても暖かい雰囲気を感じました。ご利用者の能力に応じて調理や味付け、後片付けなどに参加する場面もあります。また、誕生日には希望食を取り入れたり、個々のご利用者の要望に応じて外食支援を行なうなどの対応もとっています。また、事業所の畑でもきゅうりやなすなどの野菜をつくっており、ご利用者の楽しみとなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんの摂食能力に応じて軟らかいもの、刻んだものなどを提供したり、3食の内容が重ならないように当日の献立表を確認しながら献立を決め、主菜、副菜と工夫しバランスの良いものを提供するようにしております。夏場は特に水分補給をこまめに実施し、お茶、ゼリー等工夫しております。献立内容も3ヶ月に1回、市の栄養士さんから確認いただきアドバイスをいただいております。受診時には先生からも栄養状態の説明をいただいております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三食後は口腔ケアの声かけを行い、朝夕食後は紅茶のうがいを行っております。又入歯の清潔管理も週1回ポリドントにより実施しております。又職員は口腔ケアの研修を受けて、食前に口腔ケア体操を実施しております。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをつかみながらオムツやパットが外れそうな方とは、しっかりと話し合っって綿パンツに変更後、声かけ見守りの支援をしております。又出来る範囲で全員の方へのトイレ排泄の介助を支援しております。	必要な方のみ排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしており、ホーム入居後尿意を取り戻し、おむつの外れた方もおられます。職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では野菜類を多く食べれるように工夫したり水分補給も食事のほかに声かけしながら摂取いただいております。更にどうしても便秘症の方については主治医の先生と相談し、便秘薬の処方頂き多少の調整をしながら支援しております。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に声かけを行って気分やそのときの体調を確認、本人の希望で無理強いせず気持ちよく入浴していただき、お風呂では向かい合っって思い出話など、聞かせていただける話に耳を傾け相槌しております。	毎日入浴は可能な状態になっており、入りたい方には毎日でも入ってもらっています。入浴を嫌がる方には声かけのタイミングを変えなどして入浴をしていただけるように努めています。	入浴チェック表に、清拭対応した際の記録が現状では残っておりませんので、記録の記載方法について検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の表情を見ながら声かけすることもあるが殆どは、本人の意思で休みたい時に休めるように居室の温度管理なども実施しております。少し不安定な時は一緒のお部屋で側に寄り添い話を聞くようにしております。又寝具の調整なども季節や様子を見ながら実施しております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方のお薬カードを確認し副作用などに注意している。又薬が変わった時などは職員全員に周知しバイタルや症状の様子を記録し主治医に報告及び確認しながら対応しております。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自由に動ける方、車椅子が必要な方など行動に差がありますが、畑を楽しまれる方、花壇を楽しまれる方百人一首やいろはガルト、魚沼方言カルタなどをそのときの雰囲気に合わせて行っております。最近ではユニット間の交流会や各ユニットでのサークル活動などを試行しております。毎年8月は中学生のボランティアさんが来てくれるのを楽しみにしております。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	言われてすぐ出来ない時は、時間や日にちを決めて出かけることが出来るように支援しております。祭りに行きたい、お墓参りに行きたい、自宅へ泊まりに行きたいなどの支援のほか、時期々に催される地域行事やさくら、百合、菊の花見等取り入れておりますそのほかドライブなどは出来る範囲でそのときに対応しております。	2日に1回程度、ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけています。また天気の良い日の散歩や行楽シーズンの小旅行も実施しています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は持っていても中々使えなく家族が来られたときなどにつかったり、パーマや下着類の購入などに使用しております。夏祭り際には駄菓子屋さんで自分の食べたいものを購入していただいております。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している方が居るので、その都度つかい方などで困っていることを説明したりしています。友人から来たお手紙の返事の住所の見直しなど頼まれた時にしております。本人がどうしても家族と話したい時などは電話をかけてつなげてあげます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの共用空間の温度管理を行いながら季節の花を飾ったり、ちぎり絵などを飾り工夫しております。職員もフロアーに必ず居られるようにし見守りや声かけを行っております。	全体的に木材を取り入れた温かみのある内装になっており、飾られている写真や装飾品も家庭的です。食堂のテーブルも一般家庭と同様のものを使用しており、居心地のよいリビングになっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなテーブルや小さなテーブルを置き利用者さんに合わせて使う事が出来るようにしております。1人で本を読んだり、テレビを見たり、入居からのアルバムを見たり出来るように用意しております。職員もフロアーで見守りいつでも支援できるようにしております。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、これまでの思い出の写真、ご主人のご位牌やミニ仏壇など用意しており、月命日など声かけしてお茶などあげるようにしたりと、本人にとって危険でないものを用意していただいております。	居室には、ベッドやテレビ、コタツなど、自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真や家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・風呂場・の明記や居室、下駄箱には入居時に確認し名前を記名させて頂いております。名前を見て確認し、安心した表情で利用していただいております。		